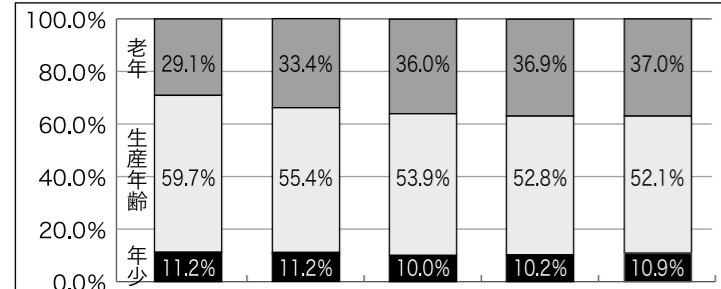


大竹市の人口構成 (H22,27国勢調査、H32~大竹市人口ビジョン)



人口区分	H22	H27	H32	H37	H42
老年	8,394	9,305	9,466	9,275	8,875
生産年齢	17,223	15,430	14,173	13,272	12,506
年少	3,218	3,130	2,634	2,570	2,603
総数	28,835	27,865	26,273	25,117	23,984

老年…65歳以上 生産年齢…15~64歳 年少…14歳以下 (単位:人)

施設の利用状況

◆全体(旧館・新館・アゼリアホール)			◆旧館・新館		
年度	利用回数	利用人数	年度	利用回数	利用人数
平成25年度	2,393	60,043	平成25年度	1,609	31,760
平成26年度	2,209	56,509	平成26年度	1,493	33,401
平成27年度	1,827	40,926	平成27年度	1,501	30,654

※ アゼリアホールは、平成27年10月~平成28年9月までの間、改修工事により利用中止としていたため、大幅に利用人数が減少しています。

居室面積	部屋名
33㎡以下の部屋	第4研修室(1階) 新郎控室(2階)
38~55㎡の部屋	第3研修室(1階) 小集会室(2階) 新婦控室(2階) 第1研修室(3階)
80~119㎡の部屋	老人集会室(1階) 中集会室(2階) 結婚式場(2階) 第2研修室(3階)
336㎡の部屋	大集会室(2階)

稼働率・施設がどのくらい使われているかを示す数字。利用された時間を施設が開いていて使うことのできる時間で割って求める。

使いやすい施設が良いよね。大竹会館は、どんな施設に変わるのかな？



答えは次回で

—社会教育施設等の再編—

大竹会館の方向性①
(基礎調査と分析編)

今回は、大竹市公共施設等総合管理計画を紹介しました。今回は、この計画に基づいた大竹会館の改修の方向性(基礎調査と分析)をコイちゃん和您ていきましょう。

いっしょに



考えよう⑬

公共施設マネジメント
問い合わせ
企画財政課 ☎2125
生涯学習課 ☎5800

1 大竹会館は建物の一部が大変古い施設です

大竹会館は、昭和38年に「文化会館」として建設、昭和59年の大改修および新館増設に伴い「大竹会館」と改称されました。平成2年には体育館を兼ねた講堂(アゼリアホール)を併設し、さまざまな機能を併せ持つ施設となりました。現在、市民活動の場、宴会場、大竹支所や避難所として利用されていますが、昭和38年に建設した部分は大変古くなっています。

大竹会館の旧館は、建築されてから50年以上経っているんだね。

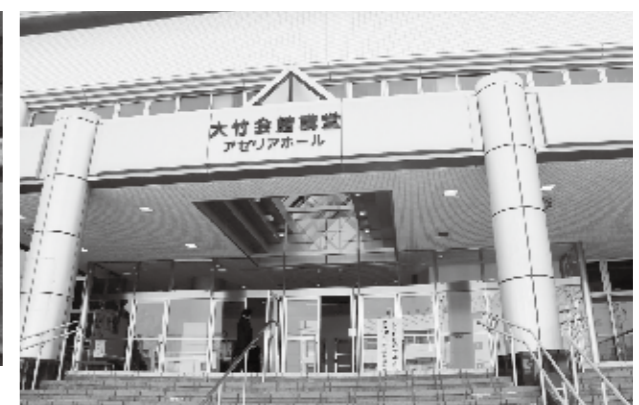
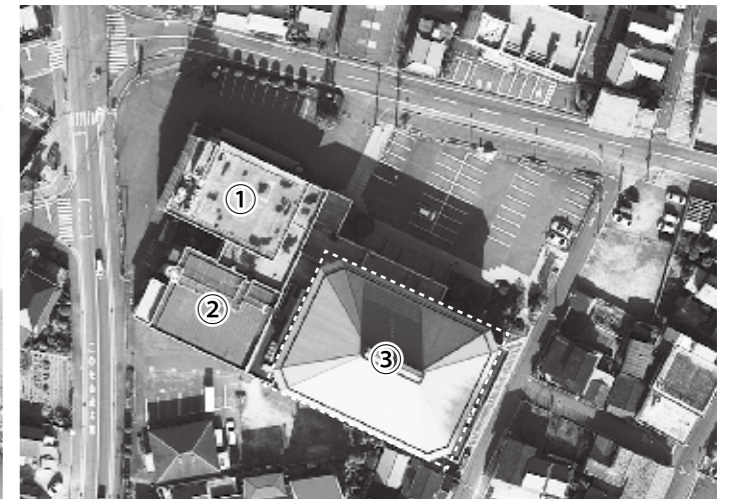


‘おおたけ’PRキャラクター
コイちゃん

①旧館(昭和38年築)



②新館(昭和59年築)



③アゼリアホール(平成2年築)

旧館および新館の部屋別利用分析

数年間の利用実態を分析しました。利用者の内訳では「自治会・地域団体」、「企業・事業者」の利用は安定していますが、「住民グループ・住民(生涯学習グループ)やその他の個人など」や「市」の利用は減少傾向にあります。目的でみると、「会議・研修・会食」の利用は安定しているものの、「運動・歌謡・演奏」「控室」「公的利用など」の利用は減少傾向にあります。居室面積でみると、336㎡の大集会室と38~55㎡の部屋の稼働率が比較的高く、33㎡以下の部屋や80~119㎡の部屋の稼働率が低くなっています。なお、大集会室は主に「会議・研修・会食」に、38~55㎡の部屋は「運動・歌謡・演奏」に使われています。

稼働率の高い居室面積を検討しました

利用実態を分析すると、現状の60%に相当する688.6㎡の居室面積があれば、現状の利用実績をほぼ充足できることが分かりました。このことから、大竹会館の改修の方向性は、現状の活動が不足なく行える居室面積を確保するとともに、効率的な運営ができる施設整備を目指すこととし、研修室スペースの整備の際には、パーテーション(可動間仕切り)などを用いてイベントに応じた多様なスペース活用が可能となるものにします。

誰でも利用しやすい施設とするために

高齢者や障害のある方を含め、誰もが使いやすい施設になるよう、エレベーターや車イス対応のフロアなど、バリアフリーに配慮した整備を行います。